

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1070900194		
法人名	社会福祉法人 山紫会		
事業所名	グループホーム 音和の家		
所在地	群馬県藤岡市藤岡2874-9		
自己評価作成日	平成26年9月30日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	サービス評価センターはあとらんど		
所在地	群馬県前橋市富士見町小暮 704-2		
訪問調査日	平成26年10月28日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「住み慣れた地域の中で利用者一人ひとりが尊厳を持って望む生活が送れるよう支援する。」という理念のもと利用者様個々の尊厳を大切にしながら支援を行っております。また安心して楽しく過ごして頂けるように慰問を招き鑑賞して頂く機会を設けたり、利用者様の要望を聞き外食に出掛けたりしています。普段は併設施設の管理栄養士による献立メニューにより栄養が偏らないようにしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

“一人ひとりの要望を大切に支援”を心がけ、管理者と職員は連携を図りながらサービスの向上に取り組んでいる。職員は利用者とのコミュニケーションを大切に、一人ひとりに穏やかな態度で寄り添い、本人の言葉や表情・行動等から思いや意向を把握して、役割や楽しみごと、外出等の支援につなげている。利用者の表情は穏やかで、お互いに助け合いながら、居心地良く暮らしているように見受けられた。ホーム周辺は自然環境に恵まれ、四季折々の景観を楽しむことができる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	利用者への処遇検討には理念に基づき検討を行うようにしている。	ミーティングや会議等で理念に沿ったケアが出来ているか確認し合い、実践につなげている。“一人ひとりの要望を大切に支援”を心掛けており、行事等に反映させている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事に参加させてもらい交流を図れるようにしている。また不定期であるが地元の慰問団体による慰問を受けています。	近隣の人達に野菜を頂いたり、雪かきをしたもらった。地域神社の流鏝馬に出かけている。隣接する施設の祭りに参加している。中学生が来訪したり、中学校の文化祭に参加している。傾聴ボランティア・ギター等の演奏ボランティアが来訪している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	家族等と外出、外泊する際に認知症による言動への対応方法について相談を受け、支援方法を話す。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1度の運営推進会議にて公開することにしている。その際に具体的に意見を伺うようにしている。	会議は2ヶ月に1度、定期的開催されている。事業所から運営状況等の報告を行い、意見交換を行っている。出された意見等はサービスの向上に反映させている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に参加して頂いており意見交換をその時に具体的に意見を伺うようにしている。	3ヶ月に1度、市の介護相談員の受け入れを行っている。介護保険の申請代行・報告等で市の窓口へ出向いたり電話で相談等を行い、市の担当者と連携を図っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	現状、夜間のみ防犯上の為玄関は施錠している。日頃より職員同士拘束や虐待がないかお互いに注意している。	日中・玄関の施錠をしていない。室内から出る場合は玄関扉の上部にあるボタンを押す仕様で、貼り紙をしている。利用者が外出希望の際には、職員が同行して出かけている。今年度は身体拘束廃止に関する外部研修や事業所内研修は実施されていない。	職員が禁止の対象となる具体的な行為を正しく理解するためにも、定期的な研修の実施に期待したい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員が互いの言動による利用者への虐待について注意するようにし、ミーティング等で処遇の検討をするようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現状、権利擁護に関する制度を利用されている方はおりませんが、今後サービスの質の向上の為に活用できるよう整えていくとも考えています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には利用者様およびご家族様に内容の説明を十分に行い、ご理解を頂けたところで契約を行っています。また、内容の変更時にも同様に行っています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情担当者と外部の第三者委員を苦情受付の窓口としている。寄せられた苦情は運営推進会議において参加者にお伝えしている。	日常の会話等から利用者の要望等を汲み取っている。家族等の来訪時に日常の様子を伝えたり、毎月「音羽の家だより」を発行し、要望・苦情等を聞くようにしている。何でも話してもらえるような関係づくりに努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングや全体会議および随時職員から意見、提案を受け出来ることは随時実施している。会議等においては一方的な話ではなく全ての職員が対等に話ができるようにしている。	ミーティングや月1回・開催される全体会議等で、職員から意見や提案等を聞き、それらを運営に反映させている。管理者は職員とのコミュニケーションを大切にしており、職員からは沢山の意見や気づきが出されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人の規定に沿って職員の能力などを勘案した査定を行っている。代表者、管理者、職員間で就業環境について必要におうじて意見交換を行うように心がけている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修、外部研修を行い介護サービスの質の向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の連絡協議会の研修には出来るだけ参加し情報交換を行いたいと考えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時または生活をしてみでの感想をご本人とご家族に伺うようにしている。職員も十分に様子観察を行う体制でいる。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	申し込み時や面接時等において本人および家族に不安、要望をしっかりと聞き取りその事に対し早期に解決できるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人および家族の意見を伺い、必要性があればまず法人内の他のサービスや他の介護施設を紹介するよう努めている。法人内での連携は出来ている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様の状態にあわせて家事等の家庭にいる時に行っていた事を職員や利用者様同志で行って家庭的な雰囲気を感じて頂ける様に努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者様のよりよい生活には家族の力も不可欠であるため、家族の面会時にはプライバシーに配慮し楽しい時間を過ごして頂ける様にしている。また家族の介護に対する相談も伺う機会を作っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	お正月やお盆の帰省や外泊および外出等可能な限り家族にお願いをしています。	以前利用していた施設の祭りへ参加したり、法人併設施設利用の家族や友人に会いに出かけている。家族等と一緒に正月やお盆の帰省、外泊・外食・買い物・ドライブ等へ出かけている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日々の状態観察を十分に行い、孤立しないようにレクリエーション等の機会を作ったり職員が仲介し共に生活をしているということを理解していただけるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	併設施設へ移られた後でも日常的に顔を合わせる機会を作っており、サービス利用終了後も今までの関係性を大切にしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	会話や話し合いの中で出来るだけ把握できるように努めている。意向を伝えるのが困難な利用者は表情、反応、行動から出来る限り本人本位に考えられるようなケアに努めている。	日常の関わりの中で、本人の言葉や表情・行動等から要望等を汲み取るようにしている。家族等からも情報を得て、本人の視点に立って検討している。要望等は行事等に反映させている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者、家族よりこれまでの生活歴を確認しておおり、その中で現在の生活に合うものをサービスとして提供している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員は利用者のその方らしい生活を送って頂けるように、まずその利用者の心身の状態の把握に努めるようにし、その状態にあった本人の要望に沿う過ごし方をして頂けるようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者と家族の意向を大切にしながら、職員からの多角的な観察から、利用者にとってよりよいケアの計画を作成できるよう努めている。	本人・家族等の意向等を聞き、職員間で話し合い、意見や気づき等を反映させた介護計画を作成している。月1回モニタリングを行い、認定期間毎に定期的な見直し、状態の変化に応じて随時見直しを行っている。	本人・家族等の要望や状態の変化が無いようでも、月1回のモニタリングを基に、3ヶ月毎の定期的な見直しを期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の記録としてケース記録を用いている。職員間の情報共有として引き継ぎノートを使用し情報の共有を行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	受診に家族が行けない場合や個人の必要物品を家族がすぐに購入対応が困難な時は随時対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	定期的に傾聴ボランティアの訪問を受け、利用者の日常生活上での悩みなどを聴いて頂いている。聞いて頂ける安心した機会を設けることにより安心した生活を送って頂けるように支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医については利用者、家族の希望を優先している。往診対応が可能な主治医には月に一度の往診にて診察を受けている。主治医と施設との連携は主に電話連絡などで行っている。	本人・家族等の希望するかかりつけ医となっている。かかりつけ医が協力医の場合は、月1回往診支援がある。家族同行の受診・通院ができない場合は、職員が代行して報告を行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に一度看護師による利用者の状態観察を行っている。また、24時間勤務外での急変時にも対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院された際には定期的に利用者と家族との面会を行っている。また入退院の際には病院関係者と情報交換を密に行うように努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	介護職員、看護師、ケアマネと話し合いを行い、重度化などに対し主治医や家族の意見、要望を伺い施設として出来る事、出来ない事を提示し、今後どのようにしていくかを検討する機会を作れるようにしている。	入居時、本人・家族等に「重度化・終末期ケア・看取りに関する指針」を説明している。段階に応じて、職員・看護師・介護支援専門員で話し合い、主治医や家族等の意向を確認して、今後どのようにしていくか検討する機会を作り、他の介護・医療施設等への相談や紹介を行うこととしている。看取りの事例はない。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	法人の緊急時対応マニュアルやAEDや在宅酸素の使用説明をミーティング等で行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	併設施設と年2回防災訓練を行っている。また、運営推進会議時には地域住民の方への協力をお願いさせて頂いている。	併設施設と合同で、年2回・自主訓練(日中想定)と消防署立会いの地震及び火事想定訓練(夜間想定)を実施している。地域住民も参加している。備蓄は隣接する法人建物内に用意してある。	災害時に利用者や職員が確実に避難できるように、年2回の防災訓練の他に、避難誘導訓練の増加を期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員は利用者の様子観察を十分に行う事によりどのような性格であるか把握し情報共有を行っている。またご本人、ご家族から聴取した生活歴を踏まえた上でその方を尊重した声掛けに配慮している。	一人ひとりの生活歴や性格、思い等を把握し、人格を尊重した言葉かけをするように配慮している。管理者が指導をしたり、申し送り時や職員会議の中で話し合っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人の判断能力に合わせ出来る限り本人に決めて頂いたり、納得して頂けるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事時間、入浴時間はある程度決まってはいるが、個人の気分により多少ずらすこともある。その他のことについては押し付けにならないように利用者の要望を聞くようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	理美容については訪問業者を利用しているが強制ではなく希望にて行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	出来る範囲で聞き取りを行い、可能な物に関しては外食にでかける支援を行っている。	併設施設の管理栄養士が献立を作成している。利用者は食材取り・食器洗い・調理の準備等を職員と一緒にいき、同じテーブルを囲み食事をしていく。外食や出前の利用、おやつで好きなものを食べてもらえるよう支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量および水分摂取量が確認できるようにチェック表をつけており健康管理に活用している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後歯磨きを行っている。本人が磨けない場合は介助にて行っている。義歯の方も同様に行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	現在、オムツ使用者は1名いる。本人の訴え時にはトイレ誘導を安全に配慮し行っている。基本的には排泄チェック表をつけ排泄パターンの把握に努めている。	排泄チェック表を作成し、排泄パターンを把握しながら、その人に合わせた誘導を行い、トイレで排泄できるよう支援している。トイレ誘導時の言葉かけや失禁時の対応については、特に配慮・工夫を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェック表を使用し、排便の有無および排便のリズムの把握を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	2日に1度を基本とし入浴している。体力等に合わせ入浴回数を調整している。入浴を拒否する方がいれば、時間をずらし声掛けをしたり翌日に入浴して頂ける様に努めている。	基本的に2日に1度の入浴支援を行っている。体力等に合わせ入浴回数を調整している。入浴を拒む人に対しては、時間をずらしたり曜日の変更等で入浴してもらえるよう努めている。	職員が曜日や時間帯を決めず、本人の習慣や好みに合わせた入浴ができるよう、一人ひとりに言葉を掛け、希望に応じた入浴支援を行ってほしい。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	起床や就寝の時間は定時ではなく利用者本位としている。またお昼寝等の休息は本人の意思と体力に合わせて対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬は基本的には職員管理としている。看護師の確認の元、介護職員が内服薬を用意することにより薬の内容を確認することができている。薬の相談については主治医および薬剤師、看護師と連携を密に図っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	強制することなく利用者に確認をとりながら日常生活上での家事を行ってもらっている。また趣味、趣向に合わせたレクリエーションも行えるように努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物に行ったり、地域の行事に参加するなどの外出支援を行っている。また家族と一緒に外出、外泊される際には出先での介助支援の方法を説明している。	周辺への散歩、地域行事への参加、大型スーパーへの買い物、季節毎の花見・紅葉狩り・ドライブ・外食・映画鑑賞・図書館等へ出かけている。家族等と一緒に外泊・買い物・外食等に出かけており、戸外に出て気分転換が図れるよう外出支援に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	紛失等のトラブル防止のため利用者および家族の同意を得て帳簿をつけ施設の金庫に管理しており利用者が個人的に持っていることはないが要望に応じて金庫から出し、買い物行事等で自ら買い物をして頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	現状では電話や手紙での連絡を希望される方は居ないが施設の電話がコードレスになっており希望の際にはプライバシーに配慮した対応が出来るようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	職員による毎日の掃除、消毒を実施し感染症等の防止に努めている。また温湿度計を設置し熱中症等の防止も行っている。トイレや浴室等は換気を十分に行っている。	室内は自然光が入り明るく、清潔が保持されている。壁には行事の写真や作品を飾り、職員の顔写真を掲示している。水槽に金魚を飼い、畳の間には堀コタツを用意している。ベランダにプランターを置き、利用者が季節の花を育てている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ひとりになれる空間は居室にみである。ホールにて他の利用者と一緒にいたとしても各々趣味としている物や利用者同士の会話が出来ている。またその空間を楽しんで過ごして頂けるように見守りを行っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベッドと備え付け家具、収納以外は家具や大切な物も持ち込んで頂いている。リネン類も個人で用意して頂いている。	各居室には、筆筒・衣装掛け・衣類・ポータブルトイレ・本人の作品・日用品等、馴染みのあるものや思い出の品々が持ち込まれ、本人が落ち着いて過ごせるような配慮をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内は段差が無いようにしている。また案内図や居室氏名を表記することにより、分かり易く安心して頂ける様に配慮している。		